



# みくにだより

「”自分の気持ちをコントロールすること”ってむずかしい!？」

園長 細井 典子

夏休みのある日、スーパーマーケットの中で、4～5才ぐらいの男の子が大声で泣いていました。「わーん、わーん!あの、お菓子が欲しいよお。さっき買ってくれるって言ったじゃない!」と足をバタバタさせて泣き叫んでいます。近くでママは怖い顔をして立っています。「そんなこと言ったって、好きな物全部買っていたら、お金なくなっちゃうでしょ!!」今度は男の子は床の上に寝そべて叫び始めました。「絶対にイヤだから。ママは買ってくれるって言ったから——」「だから1つだけって言ったでしょ」「言わない!」「あれも、これも買えないわよ」「イヤだ!欲しい!絶対買うから——。ぜったい!」「勝手にしなさい!」周囲の買い物客の方々も『どうしたのかしら』と足を止めて見ていましたが、男の子がいつまでも泣いているので、『しょうがないなあ』という顔をしながら、少しずつ親子から離れていきました。ママも、あきれて先へ行こうとすると男の子はママの脚にしがみつきました。「ぜ・っ・た・い・買・っ・て!」「買わない!」今度はママも大きな声になって、怒った声になってきました。

皆さんもこんな経験ありませんか?また当事者ではなく、このような光景を見かけたことがある——という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。親としては興奮しますよね。悲しくなりますよね。ではどうしてこうなってしまったのでしょうか?買い物をする前に「今日はお菓子は買いませんよ」って約束しておけばよかったのに——。買い物に子どもを連れてこなければよかったのに——。

このように、自分の思い通りにいかなくて『怒り』の感情を表現する姿は、時々園でも見かけます。その感情を我慢している子もいます。冷静に対処する子もいます。一日の中で長時間、園にいるのですから喜怒哀楽様々な感情が表現されて当たり前です。先生方はそれを全部受け止めてくれます。そして「どうして、そう思ったの?」と話を聞きます。最初は怒ったり泣いたりしていても、話をしているうちに、心が穏やかに落ち着いてきます。そうすると、どうすればよかったのかが見えてくるから不思議です。「怒り」の感情に支配されたとき必要なのは「冷静になること」。少し時間をおいて「怒り」が収まるのを待つことにしましょう。慌てて、一緒になって激怒してはいけません。ところで、さっき見かけたスーパーの親子はどうしたのでしょうか?出口のところ、もうニコニコして走り回っている男の子を見かけました。お母さんが男の子の名前を呼ぶと「はい!」と返事をしてふたりで手をつないでスーパーを出ていきました。

## 《タオルを集めます!》

園で使っていますタオルが残り少なくなりました。そこで、タオルを集めたいと思います。新しいタオルの色、柄、大きさは問いません。スポーツタオル、バスタオルも可。使用済みの物は、嘔吐時、災害時に使わせていただきます。9月1週目、朝テラスにて集めますのでご協力をお願いいたします。